令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)自ら課題を見つけることができる資質・能力 (2)生き生きと交流することができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)_1 一斉授業と個別や習熟、協働的な授業のバランスを考えた授業計画を行う【毎単元】 (1)_2 学校で系統性のあるメタ認知できる「振り返りの視点」を定め、それをもとに振り返りを行わせる【毎単元終了後】 (2) 交流活動の目的意識や伝え合いの仕方を確認できる学び方カードの活用や、他者参照できるクラウドを活用した授業づくりに取り組む【毎時間】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語・算数ともに、基本的な知識や技能を問う短答式の問題において、全国・県平均を大きく上回っている。特に算数の「測定」領域など、基礎的な概念の理解は十分に定着している。思考・判断・表現は全体的に良好なものの、「記述式」の問題に課題がみられる。国語では漢字の書き取りなどは良好だが、特に「複数の情報から必要な内容を抜き出して、自分の考えが伝わるように書く問題」などにおいて、十分に記述しきれない傾向がみられる。算数では、計算や基本的な図形の問題は得意としているが、特に「示された情報を基に、条件に合う求め方を数や言葉を用いて記述する問題」や「複数の表から根拠となる数と言葉を用いて記述する問題(データの活用)」において、課題がみられる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	課題を正確に理解し、真面目に反復練習に取り組むことが定着している。これが、基礎的な知識・技能の高さにつながっている。 しかし、答えが一つに決まっている問題には自信を持って取り組めるが、算数のデータの活用や国語の条件作文のように、「複数の情報(表やグラフ、文章)を関連付け、自分なりに根拠を構成して説明する」場面で正答率が低かったり、無回答率が高かったりする。「頭の中ではなんとなく分かっているけれど、それを相手に伝わるように筋道立てて書く(アウトプットする)経験」に課題があると考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	「学び方カード」や「クラウドを活用した他者参照」により、交流活動へのハードルは下がり、活動自体は活発になっていると考えられる。しかし、それが「思考・判断・表現」の定着に直結していない要因として、クラウド上で「他者の正しい答え」を見るだけで満足してしまい、そこから「自ら課題を見つけ」、複数の意見を統合して自分の言葉で再構築するプロセスが不足しているのではないかと考えられる。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	今までの向上策に加え、他者参照の際は、振り返りを記述する視点を意識させる。「他者の考え方と自分の考え方のどこが違うか」「どの説明がより分かりやすいか」を比較・検討・交流する学習活動を増やす。【毎時間】	

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)